

厚生労働大臣最優秀賞

第5回 健康寿命をのばそう！アワード（母子保健分野）

企業・団体・自治体等の名称：特定非営利活動法人ホームスタート・ジャパン

取組タイトル：訪問型子育て支援ホームスタートで、すべての子どもに幸せなスタートを

「健やか親子21(第2次)」 取組課題	○	基盤課題A「切れ目ない妊産婦・乳幼児への保健対策」	○	基盤課題B「学童期・思春期から成人期に向けた保健対策」	○	基盤課題C「子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり」
	○	重点課題①「育てにくさを感じる親に寄り添う支援」	○	重点課題②「妊娠期からの児童虐待防止対策」		

プロジェクトウェブサイトURL：<http://www.homestartjapan.org/>

取組・事業の概要と特徴

【目的・概要】

子育てが「孤育て」にならないように、私たちは「訪問型子育て支援ホームスタート」活動を通して、子どもの育ちを地域で支え合う豊かな社会を目指しています。地域の子育て経験者が、就学前の子どもがいる家庭に週に1回2時間程度定期的に訪問し、指導や代替（保育や家事代行）ではなく、親の話を聴いたり（傾聴）一緒に家事や育児（協働）をすることで、子育ての悩みや喜びを共有しながら親をエンパワメントします。

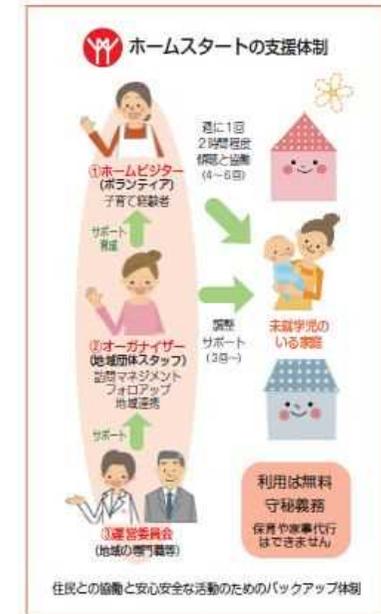
ホームスタートは、当事者性を大切にしながらも安心安全で効果的な支援を実現する仕組みを備えています。「ホームビジター」は、子育て経験のある地域ボランティアで、37時間以上の研修を受けて活動します。調整スタッフの「オーガナイザー」は、ホームビジターを丁寧に支えながら訪問マネジメントを行い、母子保健・健全育成・社会福祉分野等の行政各担当課や地域関係団体等との連携により親子を切れ目なく包括的に支援します。外出しにくい家庭では一緒に乳幼児健診や予防接種、子育てひろばなどに出かける等、母子の健康増進に必要な他の支援を利用できるように援助することも多く、住民による伴走型のこの支援は、親自身の子育て意欲や力を高めて親子のQOLが向上するきっかけ作りに役立っています。

43年前にイギリスで始まったモデルを基に平成21年に開発した日本版ホームスタートは、全国にひろがり、平成28年11月現在では87の地域団体が取り組んでいます。虐待等の問題発生予防に繋がることが認められ、市区町の委託事業として協働による子育てしやすいまちづくりが各地で進み、母子保健分野と連携した「産前産後サポート事業」や「子育て世代包括支援」の一翼を担える取組にもなっています。

【成果】

ストレスがないように見える子育て家庭も、集団の中で見せない悩みを抱えていることがあります。若年や高齢出産、障がい児や多胎児の育児、ダブルケア、ひとり親、外国人等、地域情報や支援が届きにくい孤立しがちな家庭の多様なニーズを傾聴と協働で支えます。当団体独自の成果指標と活動実績集計データによると、利用者のニーズ充足度は平均90%となっています。又、利用は無料のため、経済的に余裕のない家庭も気軽に利用できます。当団体では、妊娠期からの切れ目ない支援が可能になるよう、本年度から「ホームスタート産前産後支援モデル事業」を展開しています。昨年度の試行事業の訪問では、妊婦の不安感や孤立感にオーガナイザーやホームビジターが良き友人として寄り添い、母子保健専門職と連携しながら情報提供も行うことで産後も早期に社会資源につながるができ、安心して楽しく育児のスタートをきれることが確認されました。

取組・事業の概要がわかる写真や図



厚生労働大臣 企業部門優秀賞

第5回 健康寿命をのばそう！アワード（母子保健分野）

企業・団体・自治体等の名称:アサヒグループ食品株式会社

取組タイトル:和光堂子育てサポート活動

「健やか親子21(第2次)」 取組課題	<input type="radio"/> 基盤課題A「切れ目ない妊産婦・乳幼児への保健対策」	<input type="radio"/> 基盤課題B「学童期・思春期から成人期に向けた保健対策」	<input type="radio"/> 基盤課題C「子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり」
	<input type="radio"/> 重点課題①「育てにくさを感じる親に寄り添う支援」	<input type="radio"/> 重点課題②「妊娠期からの児童虐待防止対策」	

プロジェクトウェブサイトURL

■アサヒグループ食品株式会社ホームページ(CSR・環境活動>食と健康>子育て支援) <http://www.asahi-gf.co.jp/csr/food/index.html>

取組・事業の概要と特徴

【目的・概要】

アサヒグループ食品(株)では、子どもが健やかに育つ社会の実現に向け、和光堂事業を通じて母子の健康を増進する活動を直接的な対話やSNS等を利用した情報発信など様々な形で展開しています。

具体的には、専門の知識を持つ栄養士が妊娠期の食事や離乳食の進め方について講座を行ったり、相談会を開催したりする取組を、行政、NPO、専門団体、企業と連携し、全国各地で展開しています。食事や育児に関する正しい知識の普及のみならず、個別に相談に応じ育児に関する悩みに丁寧に寄り、保護者の不安の軽減に努めています。また、離乳食に関する講座では、「授乳・離乳の支援ガイド」を元に進め、文字のみでは判りづらい具材の大きさや固さについて、指針に沿って作られたベビーフードを可能な限り提供して、体験によって月齢ごとの変化をより深く理解できるような工夫をしています。

さらに、妊娠期から乳幼児期までの楽しい食の情報をご提供するためのWEBサイトも展開しています。これにより、多くの皆様の食事や育児の不安を取り除き、楽しく子育てをしてもらえるような取組を行っています。

【成果】

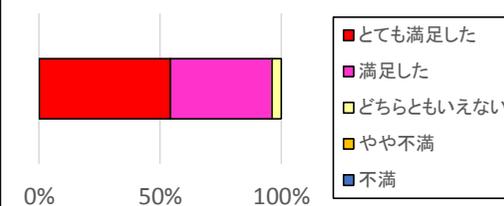
和光堂子育てサポート活動は、母子の健やかな毎日を願い、55年以上にわたって続けてきました。

2016年1月～7月にアサヒ ラボ・ガーデンで開催した離乳食講座のアンケートでは、95%以上の参加者が「とても満足した」「満足した」と回答しました。また、アンケートに感想として記載されていた「これから始める離乳食に不安が多かったのですが、おかげで準備ができました。」「ネットからの情報だけでなく、直接お話を聞いて大変良かったです。」「いつも不安を持ちながら食事を作っていたので、お話を聞いてとても良かったです。」などのお声は、私共の活動が育児に関する様々な不安を解消していることを裏付けており、母子の健康増進に繋がっていると認識しています。

取組・事業の概要がわかる写真や図

2016年1～7月
アサヒ ラボ・ガーデン開催 離乳食講座アンケート集計

セミナーの内容について



※グラフの%は、未回答分を含んでいません。



厚生労働大臣 団体部門優秀賞

第5回 健康寿命をのぼそう！アワード（母子保健分野）

企業・団体・自治体等の名称：日本ピアカウンセリング・ピアエデュケーション研究会

取組タイトル：若者が思春期の若者を支えるピアカウンセリング活動の取り組み

「健やか親子21(第2次)」 取組課題	基盤課題A「切れ目ない妊産婦・乳幼児への保健対策」	○ 基盤課題B「学童期・思春期から成人期に向けた保健対策」	基盤課題C「子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり」
	重点課題①「育てにくさを感じる親に寄り添う支援」	重点課題②「妊娠期からの児童虐待防止対策」	

プロジェクトウェブサイトURL：<http://www.jpcaea.net/>

取組・事業の概要と特徴

【目的・概要】

日本ピアカウンセリング・ピアエデュケーション研究会は、「ピア・カウンセリング/ピア・エデュケーション」の実践と普及、並びに研究という目的を達成するための活動を行っています。具体的には、①全国で開催される思春期ピアカウンセラー養成プログラムの管理や定期的な評価・改定(特に、時代の変化に伴う社会のニーズや若者気質の変化に対応したカリキュラム内容の見直し)、②思春期ピアカウンセラーを養成する講師の認定と継続的な育成(ブラッシュアップ研修会の開催や健やか親子21に関連した新しい知見の紹介など)、③全国で開催されている思春期ピアカウンセラー養成講座へ認定講師の派遣、④地域活動が円滑に行われるためのピア・コーディネーター養成、⑤ピア・カウンセリング・エデュケーションに関する研究、⑥全国への普及啓発に向けての「ピアカウンセリング・ピアエデュケーション実践マニュアル」の出版と教材開発を行っています。①～④までの人材養成では、本会が構築した養成プログラムを用いて、認定を受けた講師がカウンセラーを養成しています。また、研修プログラムを用いてピア・コーディネーターを養成しています。これにより活動継続システムが構築され、思春期ピアカウンセラーやピア活動の質を担保し、活動の継続と定着が図られています。

【成果】

本会の結成から11年間で、思春期ピアカウンセラーを養成する認定講師は60人となり、思春期ピアカウンセラー養成講座を185回開催し、2,986人の思春期ピアカウンセラーを養成しました。思春期ピアカウンセラーたちは、各地域において中高生、大学生等を対象に将来の望んだ時に妊娠・出産するための人生設計、性感染症予防、望まない妊娠予防などの性＝生の健康教育、自尊感情を育む心の相談活動を実施し、未来に向けた母子保健の向上に寄与しています。2年ごとに開催している全国ピア・カウンセリング大会は、2015年で第6回を迎えました。全国から思春期ピアカウンセラーとピアカウンセラー養成認定講師やピア・コーディネーターが参加し交流を深め、各県の様々なピア活動を発表しあい、今後の活動について検討を行っています。

取組・事業の概要がわかる写真や図



厚生労働大臣 自治体部門優秀賞

第5回 健康寿命をのばそう！アワード（母子保健分野）

企業・団体・自治体等の名称:比企郡吉見町(埼玉県)

取組タイトル:町ぐるみですすめた！健口(けんこう)づくり～吉見町〇8(よいは)の会との10年間の歩み～

「健やか親子21(第2次)」 取組課題	○ 基盤課題A「切れ目ない妊産婦・乳幼児への保健対策」	○ 基盤課題B「学童期・思春期から成人期に向けた保健対策」	○ 基盤課題C「子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり」
	重点課題①「育てにくさを感じる親に寄り添う支援」	重点課題②「妊娠期からの児童虐待防止対策」	

プロジェクトウェブサイトURL:なし

取組・事業の概要と特徴

【目的・概要】

平成16年度のデータでは、3歳児のむし歯のない児の割合は53.2%、一人平均むし歯本数は2.25本と埼玉県の平均を大きく下回る状況でした。そこで、町では住民参加による事業展開で3年後に一人平均むし歯本数を0.8本に減らそうという大きな目標を立て、むし歯を減らす取組が始まりました。生涯にわたるお口の健康づくりは小児期から始まることを地域住民に啓発しながら、住民が直接参加してのむし歯予防の取り組みとして〇8(よいは)の会(※)との協働による、ライフステージに応じた歯の健康づくり「乳幼児期・学齢期の歯科健診、歯科保健教育、フッ化物応用」を実施しています。

- ・フッ素塗布の実施:1歳2, 3ヶ月から3歳児健診受診まで、3, 4ヶ月間隔でフッ素塗布実施(費用として1回につき100円自己負担)
- ・フッ化物洗口の実施:幼稚園、保育所、小学校、中学校の町内の全施設にて、希望者に実施
- ・むし歯予防・健康教育の実施:歯科保健教育の授業、学校歯科医や家庭・保護者と連携
- ・「パパママ歯科健診」の実施:子育て世代を対象とした成人保健事業
- ・住民有志によりボランティア的に継続活動へ
- ・月1回のミーティング開催
- ・フッ素塗布事業への協力参加
- ・フッ化物洗口に関しての勉強会開催
- ・子育て家族への『むし歯予防説明資料(まんがなど)』作成
- ・〇8(よいは)の会サマージイベント開催
- ・吉見まつり(町民まつり)に参加(むし歯予防のPR活動など)
- ・町民健康講座(高齢者学級)に参加

※0.8本を目標に、〇×の『〇』は『良い』の意味があることから、住民参加のボランティア団体の名称を『マルハチの会』と書いて『〇8(よいは)の会』としました。

【成果】

町内におけるライフステージに応じた歯の健康づくり(フッ化物応用等)によって、今まで以上に乳幼児期から小中学校における歯科保健教育活動が充実しました。〇8(よいは)の会と行政、歯科医や家庭・保護者と連携したむし歯予防・健康教育に取り組む機会が増えたことで地域住民、子どもたちや保護者、家族のむし歯予防への意識や関心が高まり、成果がより一層現れてきたと考えています。10年間の継続した取り組みの成果として、〇8(よいは)の会発足(事業開始)時、初めて取り組んだ3歳児が中学1年生を迎え一人平均永久歯むし歯本数は埼玉県内でもトップクラスの状況を保っています。

取組・事業の概要がわかる写真や図



厚生労働省雇用均等・児童家庭局 企業部門優良賞

第5回 健康寿命をのばそう！アワード（母子保健分野）

企業・団体・自治体等の名称：日本電気株式会社

取組タイトル：NECワーキングマザーサロン

「健やか親子21(第2次)」 取組課題	<input type="radio"/> 基盤課題A「切れ目ない妊産婦・乳幼児への保健対策」	<input type="radio"/> 基盤課題B「学童期・思春期から成人期に向けた保健対策」	<input type="radio"/> 基盤課題C「子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり」
	<input type="radio"/> 重点課題①「育てにくさを感じる親に寄り添う支援」	<input type="radio"/> 重点課題②「妊娠期からの児童虐待防止対策」	

プロジェクトウェブサイトURL：<http://jpn.nec.com/community/ja/resources/mother.html>

取組・事業の概要と特徴

【目的・概要】

NECワーキングマザーサロンは、子育てをしながら働く、あるいは、働きたい女性を対象に、ワークライフバランスについて学び、社会復帰を支援することを目的としています。2007年からNPO法人マドレボニータと協働し、全国各地でプログラムを実施しており、NECやNEC関連の社員に限らず、誰でも参加できます。本プログラムは、進行役のもと、当事者自身のエンパワメントの必要性に着目し、参加者が自分自身の不安や悩みに向き合い、自ら解決する力を発揮できることを目指す、少人数制のワークショップであり、これまで延べ5,647名が参加しました。本年度は新たに鳥取県を開催地に加え、従来の25か所から34か所に開催地を拡大しました。社内では、2014年に東海支社、2013年と2016年には日本電気労働組合と協働で、本社ビルにおいて開催しました。また、東北復興支援の一環として、2012年には岩手県と宮城県で開催しました。2015年には復興連携協定を結んでいる宮城県南三陸町の町役場にて、母子健康手帳を取りに来られた方に産後ケアのパンフレットを配布するなど、行政と連携した取組も行っています。

【成果】

人材育成の観点では、参加者(受益者)が参画者(提供者)になっていくワークショップ形式の実施により、活動への参加だけにとどまらず、運営側としての参画も可能となりました。これにより、運営メンバーが団体の職員だけでなく、過去参加者などの豊かな構造が展開されるため、内容がより参加者のための活動へと近づきます。また、参画者としての経験をボランティアや個人事業などそれぞれのフィールドで経験や学びを活かすための学びの場になっています。

また、本プログラムでは、毎年参加した方々にアンケートを実施しており、高い評価を得ています。2015年度は、13都道府県の25区市町で55回開催し、485人に参加いただきました。アンケートでは、98%の方が参加して「とてもよかった」又は「よかった」と回答し、さらに、参加者の70%の方が「また参加したい」、14%の方が「運営メンバーに関心がある」と回答しました。そして、参加者からは、「今日のサロンを通じて、本当に自分がしたいことは何かを見つめて、パートナーと話して実現させていきたいという意欲がわいてきました。後悔でなく笑顔で仕事復帰したいです！」という声や「育児・仕事の両立にはパートナーシップが重要で、子ども抜きで2人で話し合う場を定期的に設けるようにしたい。職場復帰をして、自分の心がどのように変化するのか楽しみ。」という声が聞かれました。

取組・事業の概要がわかる写真や図



厚生労働省雇用均等・児童家庭局 団体部門優良賞

第5回 健康寿命をのばそう！アワード（母子保健分野）

企業・団体・自治体等の名称:大阪府立大学大学院 看護学研究科 セクシュアリティ教育プロジェクト

取組タイトル:GET & ENJOY!「おつきあいのマナーかるた」を使用した高校生への出張性教育ワークショップ

「健やか親子21(第2次)」 取組課題	基盤課題A「切れ目ない妊産婦・乳幼児への保健対策」	○ 基盤課題B「学童期・思春期から成人期に向けた保健対策」	基盤課題C「子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり」
	重点課題①「育てにくさを感じる親に寄り添う支援」	重点課題②「妊娠期からの児童虐待防止対策」	

プロジェクトウェブサイトURL:なし

取組・事業の概要と特徴

【目的・概要】

2003年より地域の府立高校へ性教育の出前講義を高等学校教諭、大学生、大阪府立大学の卒業生である看護師・助産師・保健師、地域の看護師・助産師・保健師と協働して実施しています。公立高校3校対象のクラス単位のワークショップでは、各クラスにファシリテーター1名と大学教員、アシスタントとして大学生や現役看護職約12～15名が協力して実施しています。

2013年からはゲーム感覚でより楽しく取り組めるように、①「おつきあいのマナーかるた」を独自に開発しました。かるたはどの生徒も馴染みがあり、アイスブレイクとしての効果が大きく、アシスタントと一気に仲良くなることができます。続いて、おつきあいの気になる状況について、②ディスカッションシートを用いて話し合い、その後③パンフレットを用いて大切な知識の確認をし、最後にアシスタント一人ひとりから高校生に④メッセージカードを用いてメッセージを届けています。

かるた、ディスカッションシート、パンフレット、メッセージカードを使って、50分授業をテンポ良く進行することで、生徒たちに飽きさせずに集中させることができます。

大学生や現役看護職と身近に関わることで、高校生の卒業後の進路選択を考える機会にもなり、年齢が近い大学生から、フレンドリーに性の話を聞くのは、抵抗が少なく、高校生の素直な反応が引き出せ、気になる言動があった高校生については、クラス担任に申し送りをして、フォローアップに努めています。

【成果】

「おつきあいのマナーかるた」を使用した高校生への性教育ワークショップについて、学会発表したところ、かるたの貸出希望が複数ありました。かるたのリズムでメッセージが記憶に残りやすいという評価を得ました。

何よりも楽しいゲーム感覚で、クラス全員で取り組み、性の話題に抵抗がある教師や大人にとっても、気楽に取り組めるメリットが大きく、デート行動カードを使用したものよりも、かるたやディスカッションシートを用いたワークショップを希望する高校が多いです。高校生の間に正しい知識や態度を身につけることは、性感染症や望まない妊娠を予防するために重要であり、授業後の高校生の感想によると、「高校を卒業するまでは、性行動は慎重にする」「お互いを尊重しあえる関係が一番大切だ」「同性愛は異常じゃないと知った」など、おつきあいのマナーとして大切な学びを得ていることが分かりました。

取組・事業の概要がわかる写真や図



厚生労働省雇用均等・児童家庭局 団体部門優良賞

第5回 健康寿命をのばそう！アワード（母子保健分野）

企業・団体・自治体等の名称：山本助産院

取組タイトル：妊娠から出産、育児を切れ目なく支援する小規模・多機能型包括的子育て支援施設へ

「健やか親子21(第2次)」 取組課題	○ 基盤課題A「切れ目ない妊産婦・乳幼児への保健対策」	基盤課題B「学童期・思春期から成人期に向けた保健対策」	基盤課題C「子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり」
	重点課題①「育てにくさを感じる親に寄り添う支援」	重点課題②「妊娠期からの児童虐待防止対策」	

プロジェクトウェブサイトURL：<http://yamamotojyosanin.com/>

取組・事業の概要と特徴

【目的・概要】

助産院開設から22年間にわたり暮らしの中での母子に関わってきました。行政による新生児訪問や、育児教室などがあるにもかかわらず産後4～5日で退院した後、孤独な中で育児をスタートしなければならない姿を見るにつけ産後のサポートがいかに重要かを感じ、不安が軽減され、育児に前向きになれるような取組を続けてきました。

妊娠期から誰でも参加できるヨガやエクササイズを行ったり、手縫いの会で産着を作製するなど母となる日を楽しんで過ごせる工夫をしています。妊娠中から様々なクラスを実施することで、母たちの結びつきが強まり、育児サークルが立ち上がりました。

また、横浜市の産前産後ヘルパー派遣事業(2007年4月)、産後母子ケア事業(2013年10月)を受諾し、横浜市や各区と連絡をとりながら、母子家庭や核家族化の中、手伝いの得られない家族へのサポートを実施しています。産後は、育児相談、母乳外来で随時フォローをし電話相談は、24時間365日いつでも相談を受けられる体制をとっています。

1ヶ月おきに小児科医の協力を得て助産所での乳児健診と医師とのQ&Aを行い、同時に助産師による相談や指導を実施しながら継続的な支援を行っています。また、育児支援ヘルパー、養育支援ヘルパー事業も受託し、育児不安や心身の不調による家事育児負担の軽減を目的にヘルパーを派遣し、虐待の予防や重症化防止を行っています。

育児不安や心身の不調による家事育児負担の軽減を目的に、「横浜市補助事業親と子のつどいの広場」(2016年2月開所)を開設したことにより、広く周知されることで、多くの親子が利用できる場となりました。広場では、助産所ならではの特性を活かし、随時助産師相談を実施し、母子支援に努めています。

【成果】

当院では妊娠期から出産・育児まで切れ目のないサービス、支援を実施しています。母乳相談で困っている方を産後母子ケア事業につなげたり、産後の手助けがない方への産後支援ヘルパーの手配、産後ケア事業で当院を利用した方を、親と子のつどいの広場や乳児健診でフォローするなど、包括的な支援により、細分化されず、継続支援できているケースが増えています。また、当院で分娩した方のみでなく、多くの家庭と関われるようになり、保健センターと情報共有しながら、支援が必要な母子をフォローしています。初歩的な抱っこの仕方、あやし方、母乳の与え方などを習得することで、精神的にもリラックスして子育てができるように支え、虐待や産後うつや、虐待の発生を未然に防げるよう、それらの早期発見にも努めています。

取組・事業の概要がわかる写真や図

妊娠、出産、育児 包括的小規模多機能型子育て支援施設



厚生労働省雇用均等・児童家庭局 自治体部門優良賞

第5回 健康寿命をのばそう！アワード（母子保健分野）

企業・団体・自治体等の名称：前橋市（群馬県）

取組タイトル：ぶきっちょさんの運動教室「のびのびあそぼう会」

「健やか親子21（第2次）」 取組課題	○ 基盤課題A「切れ目ない妊産婦・乳幼児への保健対策」	基盤課題B「学童期・思春期から成人期に向けた保健対策」	基盤課題C「子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり」
	○ 重点課題①「育てにくさを感じる親に寄り添う支援」	重点課題②「妊娠期からの児童虐待防止対策」	

プロジェクトウェブサイトURL：<http://www.city.maebashi.gunma.jp/kurashi/42/60/65/p002160ot.html>

取組・事業の概要と特徴

【目的・概要】

前橋市では、「あらゆる子どもと保護者に対する支援の充実」を目指して子育て支援の諸施策を展開しており、その一環として本事業を実施しています。

不器用さがある子どもは総合的な運動がバランスよくできず、自己評価を下げ、運動を避けてしまうことがあります。そのため、そのような不器用さのある子どもが、自分の身体の動かし方を知り運動の楽しさを体感すること、保護者が不器用さを意識して日常的な運動習慣をつけること、を目的として本事業を実施しています。また、本市では平成27年度から年中児を対象に5歳児就学前健診を実施しており、その健診事後教室としても機能しています。本事業の対象は、5歳児健康診査保護者用問診表の粗大運動の項目※（スキップができない、ブランコがこげない、片足でケンケンができない）に該当する等、運動や姿勢に苦手さや困り感がある年長児とその保護者（不器用さについて基準は設けず、保護者の主観によるもので可）です。広報は、市ホームページへの掲載、幼稚園・保育園へのチラシ配布で行っています。実施は、毎月1回（平成28年度は2回）1時間。定員は10名（平成28年度は15名）。スタッフは、作業療法士（以下、OT）2～3名、その他必要に応じて保育士、保健師、心理相談員などです。活動内容は、最初と最後にストレッチを行い、主活動は、自分の身体遊び・トランポリン・クライミングウォール・縄遊び・タオル遊び等粗大運動を中心に行います。並行して後半に、自宅でもできる遊びの紹介と、遊びと不器用さの関係についての解説などを行う保護者向けミニ講座を実施しています。また、個別の相談には随時対応し、児童の得意・不得意を見極め、支援していくために、必要に応じてOTが検査等を実施することもあります。

※「軽度発達障害児の発見と対応システムおよびそのマニュアル開発に関する研究（主任研究者：小枝達也）」参照

【成果】

平成23～28年度までのべ参加者数は、児童保護者合わせて、161名、132名、170名、220名、168名、200名（28年度は8月まで）です。過去3年間の保護者への年度末アンケートでは、「不器用さの変化」は、とても改善が4.2%、やや改善が33.3%、どちらとも言えない62.5%、「身体を動かすことに対する意識の変化」は、今までも身体を動かすことが好きだったがもっと好きになった54.2%、今までは嫌いだったが好きになった29.2%、今までと変わらない16.7%、今までよりも嫌いになった0%、と、不器用さの改善そのものよりも、運動に対する意識の変化への満足度が高くなっています。また、91.7%が自分の子どもに合った活動内容だった、と答えています。その他、「家ではしないが、ここでは挑戦してくれるのでとても嬉しかった」「何でもやる気がなく引っ込み思案だったので、参加するだけでも改善とを感じる」「自信がついたと思う」などがあり、不器用な子が“あとちょっとがんばればできる”活動を提供した効果と思われま。す。「家でも出来そうなことが多かったので、家でもやってみようと思う」など、保護者への運動習慣の意識付けもできました。

発達障害を含む不器用な子どもたちは運動を避けがちであり、そのような児童に対して不器用さの専門家であるOTの視点で運動を提案することがより適していると考えられます。平成28年度は小学1年生を対象に同様の教室を企画・実施しており、支援を広げています。

取組・事業の概要がわかる写真や図



厚生労働省雇用均等・児童家庭局 自治体部門優良賞

第5回 健康寿命をのばそう！アワード（母子保健分野）

企業・団体・自治体等の名称：米原市（滋賀県）

取組タイトル：ICTを活用した子どもの健康増進プログラム

「健やか親子21(第2次)」 取組課題	基盤課題A「切れ目ない妊産婦・乳幼児への保健対策」	基盤課題B「学童期・思春期から成人期に向けた保健対策」	○ 基盤課題C「子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり」
	重点課題①「育てにくさを感じる親に寄り添う支援」	重点課題②「妊娠期からの児童虐待防止対策」	

プロジェクトウェブサイトURL：https://www.nttdocomo.co.jp/info/news_release/2015/10/15_00.html

取組・事業の概要と特徴

【目的・概要】

近年、「子どもの体力・運動力低下」が問題視されているが、米原市においても、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」で同様の傾向が見られるなど、市内児童の体力・運動能力向上と活動の見える化は喫緊の課題となっています。そこで、「ICTを活用した子どもの健康増進・体力向上とその活動の見える化」の先駆的な全国初の取組を企業、教育機関、研究機関が連携し実施しました。具体的には、米原市と株式会社NTTドコモ、株式会社ルネサンス、山梨大学／中村和彦教授が連携し、子どもの運動能力向上に係る研究結果を取り入れた独自の運動プログラムを市内2つの小学校に提供しています。併せて、ICT技術を活用し、子どもの活動状況をビックデータとして蓄積・解析・フィードバックすることで、子どもの健康増進・体力向上の経過を見える化する取組です。

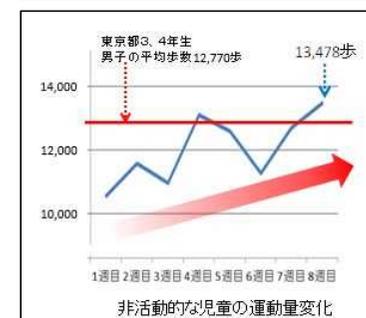
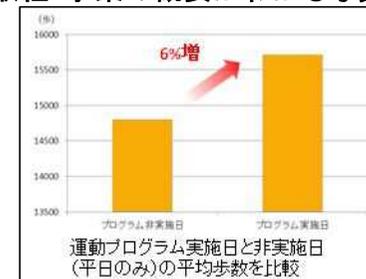
運動プログラムは、中村教授（山梨大学）が分類した「幼少期に身につけることが望ましい36の基本的動作」に基づき、子ども自身が楽しく取り組めるプログラムを山梨大学／中村教授監修のもとルネサンスが開発し、研修を受講した小学校教師が各小学校にて児童を対象に実践しました。

当該活動のモデル実証として市立春照小学校、市立山東小学校を選定、3・4年生（今年度は4・5年生）の児童120人が、毎週1回60分の運動プログラムに取り組みました。NTTドコモの腕時計型ウェアラブル端末「ドコッチ」を児童が身に付けることで、日々の歩数データ（活動段階に応じた3段階の歩数データ）を10分毎に収集、クラウド管理をし、運動データを児童がタブレット端末にてリアルタイムで見られるようにしました。また、年度末にはデータ解析を実施し、「運動遊びのあゆみ（通知表）」として個々の児童へのフィードバックを行ないました。

【成果】

プログラム実施により、プログラム開始時において非活動的であった児童の平均歩数が、プログラム実施前後で増加がみられました。また、ICTを活用したビックデータ分析により、活発な児童と運動が苦手（と思われる）児童の特徴（アクティブな活動時間の多寡や平日・週末の活動量の差、など）が「見える化」できたことで、運動能力向上・健康増進に向けた児童へのアプローチを定量的且つリアルタイムに（きめ細かく）実施・検証していくための示唆を得ることができました。本プログラムに参加して経験したことなどを明らかにすることを目的に実施した児童へのアンケートでは、「運動や遊びをするとき、ルールや決まりごとを守った」「友達と協力して、なかよく運動や遊びができた」「新しい運動や遊びのやり方を知った」の項目に関しては、80%以上の児童が経験できていたとの結果が出ています。当該取組は、企業、教育機関、研究機関が「データの解析方法」や「運動継続のモチベーション向上に資するフィードバック」などを協働で議論するなど、新分野の技術向上に連携して取り組むことで、動機付けが難しい「運動が苦手な児童」へアプローチをICT技術の活用により定量的に解析し、運動能力向上に向けたアクションが取れた事が評価されています。

取組・事業の概要がわかる写真や図



運動プログラムの様子



教職員研修会の様子

厚生労働省雇用均等・児童家庭局 自治体部門優良賞

第5回 健康寿命をのばそう！アワード（母子保健分野）

企業・団体・自治体等の名称：姫路市（兵庫県）

取組タイトル：市内すべての中学校における思春期出前授業の実施 ～子どもたちの自尊心を育みたい！ネットワーク会議と連動した取り組み～

「健やか親子21(第2次)」 取組課題	基盤課題A「切れ目ない妊産婦・乳幼児への保健対策」	○ 基盤課題B「学童期・思春期から成人期に向けた保健対策」	基盤課題C「子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり」
	重点課題①「育てにくさを感じる親に寄り添う支援」	重点課題②「妊娠期からの児童虐待防止対策」	

プロジェクトウェブサイトURL：http://www.city.himeji.lg.jp/s50/hokensho/_26749.html

取組・事業の概要と特徴

【目的・概要】

思春期の子どもたちに対しては、関係機関が様々な取り組みを行っていますが、横の連携の弱さや何か起こってからの後追いの関わりとなってしまう状況がありました。そこで、全市的なネットワークを築きながら、学校教育との協働により、次世代を担う子どもたちが自分や周りの人を大切に、健康や性行動についての正しい知識をもてるよう、市内すべての中学校で思春期出前授業を実施しています。

1. 思春期保健担当者連絡会議（平成22年度～）

子どもたちに関わる関係機関がネットワークをつくり、必要な取り組みを市全体で考えることを目的とし、教育委員会や小中学校養護教諭・性教育担当教諭、医療機関や地域の助産師、保健所などの関係機関が集まり、年3回開催しています。「思春期の子どもたちのめざすべき姿は自尊感情をもち自分を大切にできる。まわりの人も大切にできる。」ことであるという共通認識を確認した上で、互いの取り組みや役割についての情報交換、課題の検討や、支援者向け講演会の企画などを行っています。

2. 思春期出前授業（平成23年度～）

市立、私立、特別支援学校を問わず、市内すべての中学校の1・3年生を対象に、地区担当保健師が基本を同じくする授業を行っています（目的・内容は図を参照）。事前に打ち合わせを重ね、生徒の実態に応じた内容を組み込むなど学校毎に細かな調整を行い、出産シーンのDVDや赤ちゃん人形の抱っこ、妊婦体験を取り入れるなど、子どもたちが自尊心を高め、正しい知識を身につけられるよう工夫しながら行っています。中学3年生には、授業後に授業内容や相談先などをまとめたポケットサイズのリーフレットも配布しています。

【成果】

平成27年度思春期出前授業は市立35、私立3、特別支援学校4校において計83回、11,649名を対象に実施しました。生徒アンケートでは、親への感謝、生きていることへの感謝、自分の行動に責任をもちたい等様々な感想がありました。学校からは「専門職の視点で授業をしてもらえてよかった」「教師自身の学びにもなった」等聞かれ、性教育の重要性を教師が再認識する機会にもなっており、出前授業前後に補足授業を行ったり、出前授業に該当しない中学2年生や教師向けの授業を希望する学校も出てきています。また、出前授業と連絡会議の両輪で取り組むことで、教育委員会と保健所、各学校と地区担当保健師との顔の見える関係ができ、少しずつではありますが、連携の強化と予防的な視点での介入にもつながってきています。アウトカム評価としての10代の人工妊娠中絶実施率は、平成22～27年度にかけて3.6ポイント減少しました。

取組・事業の概要がわかる写真や図



	目的	内容
1年生	こころとからだの変化を理解し、自分を大切にすることができる	こころとからだの変化 命のつながり 自分を大切にすること
3年生	健康や性行動、性感染症について正しい知識を身につける	性感染症・望まない妊娠について（予防方法） 自己決定について

